



いきいき鯨っ子

最長兄姉保護者 様 附属小学校便り9月号 児童：611名



附属小 Facebook

☆教育目標：リーダー性を備えた「生きぬく力」の育成

☆9月の生活目標：「落ち着いた生活」をしよう。

平成29年9月15日（金） 執筆者：校長 中尾 聡彦

○「あいさつ」の大切さ

これから生きていく子どもたちは、どんな時代を生きていくのでしょうか。

例えば少子高齢化社会です。「4人に1人以上は高齢者」という時代が訪れます。生産年齢層は減る一方で、支えなければいけない高齢者は増えていくという状況が生まれてきます。

そして、グローバル化、ICT化が加速度を増します。情報の獲得、発信により世界と競争する時代が訪れます。

これに伴い産業の高度化も加速度を増すことでしょう。人工知能などの技術革新により20億人の雇用が喪失される時代が訪れると言われていています。

また、障がいをもつ人々を含め、全ての人々が幸せに生きていく共生社会の実現が求められていきます。

教育には、「不易と流行」という言葉があります。教育の本質が、「次の世代を担う人材を育み、未来を創造すること」であるならば、時代の変化に合わせて、教育内容を見直し、柔軟に対応していくは必要なことです。一方で、教育は「国家百年の計」と言われます。時代がいかに変化しようとも変えてはならない分野もあります。時代がいかに変化しようとも、人は人とかかわりの中で、生きていきます。生かされています。その関係を構築するスタートは、今も昔も「あいさつ」です。

「あいさつ」について、全校朝会（9/1）で話しましたので紹介します。

来週から教育実習が始まります。多くの教生先生との出会いを前に、今日は、「あいさつ」について、みなさんに考えて欲しいと思っています。

私は、この学校に2年前に来ました。第一印象は、朝や帰りはもちろん、廊下ですれ違う時も、「気持ちのよいあいさつ」が響き渡る学校、さすが附属小学校だと思いました。

みなさん、「あいさつ」にはどんな意味があると思いますか？

「あいさつ」は、なぜしなければいけないのでしょうか？

疲れているときはしなくてもいいものなのでしょうか？

実は、「あいさつ」にはとても重要な意味があるのです。

「あいさつ（挨拶）」の「あい」には、心を開くという意味、「さつ」には、その心に近づくという意味があります。つまり、「あいさつ」とは、まず自分の心を開くことで、相手の心を開かせ、相手の心に近づいていくということなのです。まず、自分の心を開くのですから、自分からしなければいけないのです。

「あいさつ」は、人間関係をスタートさせるための大切な言葉なのです。

「あいさつ」ができない人は、人間関係をスタートさせることができません。

また、自分では「あいさつ」をしたつもりでも、小さい声では、相手にきちんと伝わる「あいさつ」とは言えません。

相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてするのが「あいさつ」の基本です。

みなさんは、附属小学校のこどもたちです。「あいさつ」一つで、その人の第一印象が決まります。今までの自分をしっかり振り返って、改めるべきは改めましょう。

この日以来、少しずつ気持ちのよい「あいさつ」が響き渡るようになってきています。

ご家庭ではいかがでしょうか？

○教育実習

9月4日(月)から、68名の教育実習生を受け入れています。公立学校とは違い、附属小学校は教育学部や大学院の教育実習を受け入れる使命があります。附属小学校には、将来、この国を豊かに創造していく人材を育成する教員を育てるという使命があります。子どもたちは、教育実習生との出会いを心待ちにしていました。休み時間には、教育実習生にぶらさがる子どもたちの姿が見られます。運動場で共に汗を流す姿も見られます。赴任式では、教育実習生に「今日から、みなさんを『先生』と呼びます。教壇に立てば、本校の教員もみなさんも先生です。先生と呼ばれるからには、責任が伴います。学生気分は捨てて、気持ちを引き締めましょう。実習期間中、子どもを真ん中においた生活を送って下さい。そうすれば、教職という道の素晴らしさや大変さが分かると思います。」と話しました。まずは、子どもの心に、しっかり寄り添うことができるようになって欲しいと思っています。若かりし頃、先輩の教員に「教員は、もっと子どもに寄り添って物事を考えなければいけない。子どもは心配を繰り返して大人になっていく。問題行動でも、行為だけを問題にせず、なぜこの子はそうせざるを得なかったのかということの問題にしなければいけない。その子の心に寄り添うことができなければ見えないことがたくさんある。」と諭していただきました。本校の教員は、このような教師としての心構えや授業の基本を教授しながら、同時に子どもたちの学習が滞ることがないように側面から支援します。何かお気づきがありましたら、担任にお知らせ下さい。



○授業力向上研修会(8/1)



8月1日(火)に、今年度で3回目となる「授業力向上研修会 2017」を開催しました。多くの育友会役員の方々のボランティアに支えられ無事に終えることができました。衷心より御礼申し上げます。職員は、授業、研究会、運営等々の業務があるため、保護者の方々のお力添えをいただかなければ開催できないという現実があります。このような事情をご理解の上、各役割ごとに確実に業務を遂行していただきました。本当にありがとうございました。中には「こんなにたくさんの方があってよかったですね。先生方も子どもたちもがんばりがいがありますね。」という温かい言葉をかけてくださる保護者もいらっしゃいました。心に響きました。当日は、約700名の参加者がありました。講師の白石先生(明星大学)、加藤先生(筑波大学附属小学校)も、参加者の多さに驚いておられました。九州管内では本校ぐらいではないかということでした。

現在、附属学校の存在意義を問う声もあります。本研修会のように、研究成果を授業で具体化し、児童の姿で示す機会は、本校の存在意義を県内外に示す絶好のチャンスです。11月10日(金)、11日(土)には、「学部・小中教育研究発表会」を開催します。この日に向けて、各教科の担当者は、休日返上で研究紀要の原稿を執筆し、8月末には全職員で3日間という時間をかけて要項審議(原稿の検討会)を行いました。現在は、教育実習生の指導と並行しながら、授業の準備を進めています。多忙を極めています。教育に対する情熱と児童への教育愛で乗り切りたいと思います。今後も、温かいご支援をよろしくお願い致します。

9月の主な行事

- 1(金)児童登校開始、実力テスト(5・6年)
- 4(月)教育実習開始～28・赴任式
給食開始、夏季作品展(～5午前中)
- 7(木)早朝学習会6年(毎木曜日)
- 12(火)しゃちっこ集会
- 18(月)敬老の日、23(土)秋分の日
- 28(木)教育実習終了・辞任式
- 29(金)前期終業式、短縮4校時(12:30下校)

10月の主な行事

- 1(日)佐賀大学開学記念日
- 2(月)後期始業式、全校朝会、給食なし
- 6(金)授業参観、学級育友会
情報モラル講演会
- 9(月)体育の日
- 19(木)6年修学旅行～20
- 20(金)バス遠足(1～4年)
- 23(月)冬服移行期間、24(火)しゃちっこ集会
- 26(木)5年宿泊訓練～27